



高可用性クライアントログインプロファイル

- [高可用性ログインプロファイル \(1 ページ\)](#)
- [単一クラスタ コンフィギュレーション \(4 ページ\)](#)

高可用性ログインプロファイル

高可用性ログインプロファイルに関する重要事項

- この項の高可用性ログインプロファイルテーブルを使用して、プレゼンス冗長グループのクライアント再ログインの上限値と下限値を設定できます。[Cisco Unified CM IM and Presenceの管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] > [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択し、[サービス (Service)] メニューから [Cisco Server Recovery Manager (Cisco Server Recovery Manager)] を選択して、クライアントログインの上限値と下限値を設定します。
- 高可用性クライアントログインプロファイルは、単一クラスタの展開でのみ適用されません。複数のクラスタが存在する場合、高可用性クライアントログインプロファイルには、冗長グループの上位および下位のクライアントの再ログイン値を設定することはできません。複数のクラスタ展開で高可用性クライアントログインプロファイルを検出するには、さらにテストを実行する必要があります。
- Cisco XCP Router サービスのデバッグロギングが有効になっている場合は、CPUの使用率が増加し、IM and Presence Service に関して現在サポートされているログレベルが低下することを予期する必要があります。
- ここに示すテーブルに基づいてプレゼンス冗長グループのクライアント再ログインの上限と下限を設定することで、展開のパフォーマンスの問題および高 CPU スパイクを回避できます。

- 各 IM and Presence Service ノードのメモリ サイズおよび各高可用性展開タイプ（アクティブ/アクティブまたはアクティブ/スタンバイ）用に高可用性ログイン プロファイルを提供します。
- 高可用性ログイン プロファイル テーブルは、次の入力に基づいて計算されます。
 - クライアント再ログインの下限は、Server Recovery Manager のサービス パラメータ「重要なサービス停止遅延（Critical Service Down Delay）」に基づいており、デフォルトは90秒です。重要なサービス停止遅延（Critical Service Down Delay）が変更されると、下限も必ず変わります。
 - アクティブ/スタンバイ展開のプレゼンス冗長グループ内のユーザ合計数、またはアクティブ/アクティブ展開のユーザが最も多いノード。
- プレゼンス冗長グループ内の両方のノードで、クライアント再ログインの上限値と下限値を設定する必要があります。プレゼンス冗長グループの両方のノードでこれらの値をすべて手動で設定する必要があります。
- クライアント再ログインの上限値と下限値は、プレゼンス冗長グループの各ノードで同じである必要があります。
- ユーザを再平衡化する場合は、高可用性ログイン プロファイル テーブルに基づくクライアント再ログインの上限値と下限値を再設定する必要があります。

高可用性ログイン プロファイル テーブルの使用

高可用性ログイン プロファイル テーブルを使用して、次の値を取得します。

- [クライアント再ログインの下限（Client Re-Login Lower Limit）] サービス パラメータ値
- [クライアント再ログインの上限（Client Re-Login Upper Limit）] サービス パラメータ値

手順

- ステップ 1** 仮想ハードウェア設定および高可用性展開タイプに基づいてプロファイルテーブルを選択します。
- ステップ 2** プロファイルテーブルで、展開内のユーザ数を選択します（最も近い値に切り上げ）。アクティブ/スタンバイ展開を使用している場合、ユーザが最も多いノードを使用します。
- ステップ 3** プレゼンス冗長グループの[ユーザ数（Number of Users）]の値に基づいて、プロファイルテーブル内の対応する再試行の下限値と上限値を取得します。
- ステップ 4** [Cisco Unified CM IM and Presenceの管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）]> [システム（System）]> [サービスパラメータ（Service Parameters）]を選択し、[サービス（Service）]メニューから[Cisco Server Recovery Manager（Cisco Server Recovery Manager）]を選択して、IM and Presence Service の再試行の下限値と上限値を設定します。
- ステップ 5** [Cisco Unified CM IM and Presenceの管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）]> [システム（System）]> [サービスパラメータ（Service Parameters）]を選択し、[サービス

(Service)]メニューから [Cisco Server Recovery Manager (Cisco Server Recovery Manager)] を選択して [重要なサービスの停止遅延 (Critical Service Down Delay)] の値を確認します。デフォルト値は 90 秒です。再試行下限値はこの値に設定してください。

高可用性ログイン設定の例

例 1 : ユーザ数 15,000 のフル UC プロファイル - アクティブ/アクティブ展開

プレゼンス冗長グループ内のユーザが 3,000 人で、あるノードに 2,000 人、2 台目のノードに 1,000 人のユーザがいます。非平衡型のアクティブ/アクティブ展開の場合、シスコはユーザが最も多いノード (この場合は、2,000 人のユーザが割り当てられているノード) を使用することを推奨します。ユーザ数 15,000 のフル米国 (4vCPU 8 GB) アクティブ/アクティブプロファイルを使用して、次の再試行の下限値と上限値を取得します。

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
2000	120	253



(注) 再試行上限値は、フェールオーバー発生後にすべてのクライアントがバックアップノードにログインするまでのおおよその時間 (秒) です。



(注) 120 の下限値は、[重要なサービスの停止遅延 (Critical Service Down Delay)] サービスパラメータが 120 に設定されていることを前提としています。

例 2 : ユーザ数 5000 のフル UC プロファイル - アクティブ/アクティブ展開

プレゼンス冗長グループ内の各ノードに 4,700 人のユーザがいます。シスコは、最も近い値に切り上げ、ユーザ数 5,000 のフル米国 (4 vCPU 8 GB) アクティブ/アクティブプロファイルを使用して、ユーザ数 5,000 に基づいて、再試行の下限値と上限値を取得することを推奨します。

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
5000	120	953

単一クラスタ コンフィギュレーション

500 ユーザ フル UC (1vCPU 700MHz 2GB) のアクティブ/アクティブ プロファイル

表 1: 標準展開 (500 ユーザ フル UC のアクティブ/アクティブ) のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	187
250	120	287

500 ユーザ フル UC (1vCPU 700MHz 2GB) のアクティブ/スタンバイ プロファイル

表 2: 標準展開 (500 ユーザ フル UC のアクティブ/スタンバイ) のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	187
250	120	287
500	120	453

1000 ユーザ フル UC (1vCPU 1500MHz 2GB) のアクティブ/アクティブ プロファイル

表 3: 標準展開 (1000 ユーザ フル UC のアクティブ/アクティブ) のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	153
250	120	203
500	120	287

1000 ユーザフル UC (1vCPU 1500MHz 2GB) のアクティブ/スタンバイ プロファイル

表 4: 標準展開 (1000 ユーザフル UC のアクティブ/スタンバイ) のユーザログイン再試行制限

アクティブユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	153
250	120	203
500	120	287
750	120	370
1000	120	453

2000 ユーザフル UC (1vCPU 1500Mhz 4GB) のアクティブ/アクティブプロファイル

表 5: 標準展開 (2000 ユーザフル UC のアクティブ/アクティブ) のユーザログイン再試行制限

アクティブユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	153
500	120	287
1000	120	453

2000 ユーザフル UC (1vCPU 1500Mhz 4GB) のアクティブ/スタンバイプロファイル

表 6: 標準展開 (2000 ユーザフル UC のアクティブ/スタンバイ) のユーザログイン再試行制限

アクティブユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	153
250	120	203

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
500	120	287
750	120	370
1000	120	453
1250	120	537
1500	120	620
1750	120	703
2000	120	787

5000 ユーザ フル UC (4 GB 2vCPU) のアクティブ/スタンバイ プロファイル

表 7: 標準展開 (5000 ユーザ フル UC のアクティブ/スタンバイ) のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	137
500	120	203
1000	120	287
1500	120	370
2000	120	453
2500	120	537

5000 ユーザ フル UC (4 GB 2vCPU) のアクティブ/スタンバイ プロファイル

表 8: 標準展開 (5000 ユーザ フル UC のアクティブ/スタンバイ) のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	137
500	120	203

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
1000	120	287
1500	120	370
2000	120	453
2500	120	537
3000	120	620
3500	120	703
4000	120	787
4500	120	870
5000	120	953

15000 ユーザフル UC (4 vCPU 8GB) のアクティブ/アクティブ プロファイル

注目 15000 ユーザ システムで最大のクライアント ログインスループットを実現するために、シスコでは、少なくとも 2.5GHz の CPU クロック速度を推奨しています。

表 9: 標準展開 (15000 ユーザフル UC のアクティブ/アクティブ) のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	127
500	120	153
1000	120	187
1500	120	220
2000	120	253
2500	120	287
3000	120	320
3500	120	353
4000	120	387
4500	120	420
5000	120	453

15000 ユーザ フル UC (4 vCPU 8GB) のアクティブ/スタンバイ プロファイル

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
6000	120	520
7000	120	587
7500	120	620

15000 ユーザ フル UC (4 vCPU 8GB) のアクティブ/スタンバイ プロファイル

注目 15000 ユーザ システムで最大のクライアント ログイン スループットを実現するために、シスコでは、少なくとも 2.5GHz の CPU クロック速度を推奨しています。

表 10: 標準展開 (15000 ユーザ フル UC のアクティブ/スタンバイ) のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	127
500	120	153
1000	120	187
1500	120	220
2000	120	253
2500	120	287
3000	120	320
3500	120	353
4000	120	387
4500	120	420
5000	120	453
6000	120	520
7000	120	587
8000	120	653
9000	120	720
10000	120	787
11000	120	853

アクティブユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
12000	120	920
13000	120	987
14000	120	1053
15000	120	1120

25000 ユーザフル UC (6vCPU16GB) のアクティブ/アクティブプロファイル



注目 25000 ユーザシステムで最大のクライアントログインスループットを実現するために、システムでは、少なくとも 2.8GHz の CPU クロック速度を推奨しています。

表 11: アクティブ/アクティブプロファイルのログイン率 : 9 ユーザが 45% の CPU を使用

アクティブユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
100	120	131
500	120	176
1000	120	231
1500	120	287
2000	120	342
2500	120	398
3000	120	453
3500	120	509
4000	120	564
4500	120	620
5000	120	676
6000	120	787
7000	120	898
7500	120	953
8000	120	1009

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
9000	120	1120
10000	120	1231
11000	120	1342
12000	120	1453
12500	120	1509

25000 ユーザ フル UC (6vCPU16GB) のアクティブ/スタンバイ プロファイル



注目 25000 ユーザ システムで最大のクライアント ログイン スループットを実現するために、システムでは、少なくとも 2.8GHz の CPU クロック速度を推奨しています。

表 12: アクティブ/スタンバイ プロファイルのログイン率: 16 ユーザが 80% の CPU を使用

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
100	120	126
500	120	151
1000	120	183
1500	120	214
2000	120	245
2500	120	276
3000	120	308
3500	120	339
4000	120	370
4500	120	401
5000	120	433
6000	120	495
7000	120	558
8000	120	620

アクティブユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
9000	120	683
10000	120	745
11000	120	808
12000	120	870
13000	120	933
14000	120	995
15000	120	1058
16000	120	1120
17000	120	1183
18000	120	1245
19000	120	1308
20000	120	1370
21000	120	1433
22000	120	1495
23000	120	1558
24000	120	1620
25000	120	1683

